

## ほんとうの親心を娘が教えてくれた。

上尾教会 原田亜希子さん

原田さんは、妊娠中に血栓症に罹り、やむを得ず7ヵ月半で3人目の子ども「亜香里ちゃん」を出産した。集中治療のおかげもあり無事に成長していたが、1年後に脳性小児麻痺という診断を突きつけられる。自分の病気のせいだという自責の念に駆られながら、懸命に娘のリハビリに取り組んだが、思うように改善が見られない現実になり、苦悩していた。娘は2歳半から幼稚園に通い始めた。ある日、先生から呼ばれて園内での出来事を聞かされる。他の園児と同じように動けなくてからかわれたこと。それでも時間をかけてやり遂げたこと。そして、目に涙を溜めた娘は「ママ、私にもっと勇気をちょうだい!」と訴えた。原田さんは、自らの苦に目を奪われて、娘が不安や悩みを安心して吐きだせるような母でなかったことを痛感し、「我を捨て、どんなときも娘の心の声に耳を傾けられる母親になる」と心に誓った。十年先、二十年先…。将来の不安はある。だが娘を通して得た学びを糧にしていくことで、より幸せな人生を歩めると原田さんは確信している。



## 地道に、淡々と

仏道修行で大切なことは何かと聞かれた道元禪師どうげんぜんじは、「仏道を学ぶのに才能は必要ありません。志をこころざし発して自分の分に随したがって学道に努めれば、必ず仏法を得ることが出来ます」といっています。ただし、「欣求ごんぐの志の切なるべき」、つまり、つねに、そして繰り返し求める気持ちが大切だということです。

見方を変えれば、志に随したがっていま目の前にあることの二つについていねいに向きあえば、その歩みはたとえ地道ではあっても、必ず実を結ぶということなのです。

ただ、志に基づく実践といっても、人それぞれ、まさに分に随したがってどのようなことでもいいのだと思います。道端のゴミを拾う、「足るを知る」を心がける、朝のあいさつ、ハイの返事、履物はきものを揃そろえる、というのでもいいでしょう。身近でできることを地道にこつこつと、できれば目立たぬように淡々と実践することなのです。

お互いさま、一日一日を大切に、楽しい嬉しい二年にいたしましたしょう。

立正佼成会